

本牧つばき園

平成21年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400049	事業の開始年月日	平成20年8月1日
		指定年月日	平成20年8月1日
法人名	株式会社 保健科学研究所		
事業所名	グループホーム 本牧つばき園		
所在地	(231-0823) 横浜市中区本牧大里町24-10		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
		通い定員 名	
		宿泊定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計 18名	
		ユニット数 2ユニット	
自己評価作成日	平成22年3月5日	評価結果 市町村受理日	平成22年5月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

★緑豊かな自然の中に囲まれ、平成20年8月1日に開所したホームです。いつでも皆様が明るく元気に安心して過ごして頂ける様に地域の皆様、御家族様と共に触れ合いを大切にしています。関係者皆様が家族との思いで、来所の際は『ただ今』ホームを離れる時は『行ってきます』をモットーにアットホームなつばき園＝第2の我が家作りを目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年3月15日	評価機関 評価決定日	平成22年4月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><優れている点></p> <p>○充実した医療体制 医療支援体制がしっかりしている。月2回の協力医の往診、看護師による週一回の訪問看護による健康管理や24時間対応の緊急医療体制などが行われている。</p> <p>○その人らしい暮らしの支援 生活暦やADL情報などの情報は詳細に記録・把握されている。また、職員は利用者や家族の要望などに耳を傾け、常に利用者の思いや意向の把握に努め、利用者一人ひとりの主体的生活の支援に取り組んでいる。</p> <p><工夫している点></p> <p>○家庭的な雰囲気を醸し出す演出 共用の居間兼食堂では季節の花や利用者が作った季節感あふれる作品、月めぐりの暦が飾られている。食事時には利用者による食事の盛りつけや配膳など家庭に近い雰囲気を醸し出している。また、和室にはソファセットが用意され利用者は思い思いに過ごす環境が整えられている。</p> <p>○園庭の有効利用 駐車場を兼ねた園庭には利用者の手作りによる6人掛けのテーブルセットがあり、そこではバーベキューを行ったり、手作りのおやつを食べながら談笑したり利用者の楽しい一時を過ごすスペースとなっている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

事業所名	グループホーム本牧つばき園
ユニット名	はまなす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットごとに理念を掲示している。地域に融合したホームを理念に唱えており毎朝の申し送りに管理者、職員は唱和している。	・基本理念「利用者の人格の尊重」「地域に融合したホーム」を掲げ、地域密着型の意義に沿った内容である。また、毎朝、基本理念をミーティング時に唱和し、全職員が具現化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し縁日や行事に参加している。図書館を利用したり地域のお店に買い物へ行き近所の方々と挨拶や会話などを通じて繋がりを続けている。	・町内会に入会し、地域の行事にも積極的に参加したり、散歩も日常的に行われている。 ・地域住民のボランティアによる本の読み聞かせや近くの小学生の来訪もあり、地域との相互交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所や職員の状況に応じて運営推進会議を始め職員会議などで地域に役立てることはないか、何が出来るかを話し合い取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの質の向上を目指して意見や苦情をどの様に活かし、改善していくのかを職員で話し合い、次の会議にて報告をしている。	・利用者、利用者家族、町内会長、地域包括支援センター職員などが参加し、6ヶ月に一度の割合で行われている。直近の会議では、介護業界全体の職員不足について参加者から積極的な意見が出されている。	・運営推進会議の開催頻度を、2ヶ月に1度開催に近づける努力を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村への連絡は主に管理者が行っているが、ホーム便りを利用者様と届けたりして協力関係を築いている	・行政には運営推進会議の議事録を配布したり、利用者と一緒に利用者の日常生活などの記載がある便りを届けたりして、事業所の実状を知ってもらい、常時連絡の取れる関係を築いている。	

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が正しく理解しきれていないが、関係する資料やマニュアルが閲覧できるようになっている。身体拘束は行っていないが安全を守る意味で時間帯を決めてフロアの入り口を施錠する事もある。	・最近、不審者侵入という事件があり、警察の指導で当事業所では安全を守る意味で日中フロアの入口を暫定的に施錠しているが、どんなことがあっても拘束を行わないという意識は全職員が持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修などに参加し報告会を行っている。毎月のユニット会議にて気をつけているかを話あっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会は全職員に至っていない。ケアマネージャーが中心になって関係者と話し合い反映している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書は利用者御家族様と読み合わせを行い不安や疑問点について十分な説明をし理解ただけた上で署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、面会時や運営推進会議を通じて意見を出しやすい状況を設けている。出された意見はどう対応したのかを次の推進会議で報告し反映させている。	・利用者や家族から積極的に意見を聞き出すために、運営推進会議での家族や利用者の発言、家族の来訪時における意見交換、意見箱の設置、苦情や要望の受け付け窓口を明確にすることなどの努力を行っている。	

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員の意見や提案を言える環境ができています	・管理者は日常的に職員とのコミュニケーションに配慮しているが、主としてスタッフ会議などの話し合いの場で職員の意見・要望を引き出している。最近では掃除について職員意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ての希望を叶える事は難しいが、管理者は定期的に職員に人事評価やヒヤリングを行い、毎年決められた月に昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○J Tにより一人ひとりの力量に合った職員の研修や指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	つばき園の他に横浜市内に2軒のグループホームを展開しており、月に1度、管理者が集まり近況報告や問題点について話し合う機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から困っている事、不安な事を傾聴し職員は情報を共有し安心の確保に努めている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談の段階から家族等の困っている事不安な事に耳を傾け、日々の生活の様子を毎月写真入のお便りにして家族、職員の情報を共有して関係を築いていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員同士でも相談しながらその時に必要な支援を出来る様に柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを失うことなく明るく元気で自立した生活を送って頂ける様職員は喜怒哀楽を分かち合えるような関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を第一に考えサポート的な立場で共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊の制限は特になく友人や知人も馴染みの場所や関係が途切れないようにサポートしている。	・当事業所への入所段階で、利用予定者の人間関係を含む生活歴などを把握し、その中から以前から利用していたお店などを継続して利用したり、また、利用者の友人の来訪も支援している。	

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し一人ひとりが孤立することなく支えあえる様支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了した後も御家族様の承諾を得てホームの様子をお伝えしたり近況をお手紙いただいて相談や支援に努められた関係を断ち切らない取組みに努めている。		
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り一人ひとりの意思に添えるように支援を行なっているが困難な場合は何故困難なのかを納得して頂いている	・職員は会話を通じ利用者との信頼関係の構築に努め、思いや意向の話し合いのできる環境を育てている。会話が困難な場合は、家族からの情報や利用者の表情・仕草などで思いや希望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス内容をコミュニケーションの中から把握し記録に残し情報を共有することで把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録を活用し日頃からの状態の観察に努め一人ひとりの現状の把握に努めている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制をとり担当職員を中心に利用者の思いや意向の把握に努めユニット会議で話し合いプランを立てている。内容を御家族に説明し同意を得て署名と捺印を頂いている。	・利用者毎に担当者を決め、その人が中心となって課題やケアのあり方を把握し、その後、会議を経て介護計画を作成している。また、利用者の状況変化に応じ、期間内でも見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にて実践結果、気づきを記入し朝、夕の申し送りを情報を共有し日々の介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な面会、外出、外泊、メニューの変更などが柔軟なサービスの取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じてボランティア、消防、文化施設を活用し豊かな暮らしの支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診を希望する医療関係機関を確認している。家族の協力も得て受診対応をしていただいている協力医療関係機関の医師による診療が月に2度訪問看護師による健康チェックが週に1回受けられるようになっている。	・利用者は、以前からのかかりつけ医を継続的に受診し、事業所では通院介助を行なっている。利用者の意向により、受診先を協力医に切り替える場合には家族の同意を得て行っている。	

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による週に1回の訪問を受ける事で看護師と利用者様との信頼関係ができており、職員とともに情報を共有する事で適切な看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを通じて日頃の生活状況や入院に至った経過を即日医療機関に届け早期退院に向けて御家族・医師との相談をその都度行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『看取りに関する指針』を整え、契約時に説明し署名、捺印の上交付している。現在愛終末期を迎えた利用者はいないが今後に向けての対応を検討中である。	・事業所では看取り介護の考え方、具体的な支援内容などを記載した「看取りに関する指針」を職員に周知している。契約段階で重度化や終末期の対応について、マニュアルに沿って説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルがある。職員の勉強会や消防職員・看護師による応急手当の方法など学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間を想定した場合などの避難訓練を行っている。地域との協力体制を築きかけている所である。	・消防署の協力の下、6ヶ月に1回、又、自主的に2ヶ月に1度避難訓練を行っている。その中には夜間を想定した訓練も含まれている。設備として簡易スプリンクラーも設置されている	・災害に備え、食料、水、防寒具などの備蓄の検討を期待します。

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応をしない様ユニット会議にて周知徹底している。	・利用者ひとりひとりを尊重して、「子ども扱いをしない」ことをはじめ、トイレ誘導などはさりげなく言葉を掛けている。職員会議で共有している。また、職員採用時に非常勤を含む全職員が守秘義務に関する誓約書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの願いや思いを尊重しコミュニケーションの自己表現が出来る様に働きかけ自己決定が出来る様支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し買い物希望する利用者さんに付き添ったり、自分の居室をアトリエのようにして好きな時間に作品を作り楽しみの時間を過ごすなど、利用者一人ひとりに合わせた暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は委託業者が作成したものであるが、時には外出に出かけたり、希望を募り餃子や焼きそばを作ったりお弁当を持ってドライブに出掛けるなどしている。利用者は職員と一緒に盛り付、配膳、食器洗いなど一緒に行っている。	・食事をより楽しくするために、利用者と一緒に盛り付けや配膳を行っている。 ・おやつにはたこ焼き、誕生会にはケーキなどを利用者と一緒に作り、その他ファミリーレストランに行ったり庭でバーベキューを楽しんでいる。	

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の栄養士による献立がたてられており毎食ごとにバランスの取れた食事の提供ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援を行って炒る。訪問歯科により定期的に口腔の状態を見て頂きケアの仕方など指導して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとり排泄表を用いて排泄パターンを把握し声掛けを行いトイレにて自立の排泄が出来る様支援を行い失敗しても自尊心を傷つけない声掛けを行いトイレ内にて着替えを行っている。	・排泄パターンを把握してトイレでの排泄支援を行っている。リハビリパンツ利用者のみで、おむつやポータブルトイレの使用者は皆無である。トイレへの誘導時の声かけはさりげなく行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多いものを食事の一部加えたり、おやつに乳製品を取り入れたり超を動かす為の運動など個々の排便パターンを把握し便秘の無いよう予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴は行えていないが、菖蒲、ゆず、など季節を感じられる物を使ったり好みの入浴剤を入れたり個々に応じた入浴の支援を行っている。	・入浴は隔日の午後に決め、入浴順番も公平になるように配慮している。利用者個々の好みの入浴剤、季節毎の菖蒲湯やゆず湯を取り入れて入浴が楽しめるように支援をしている。	

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たい時に寝て頂けるにして頂いている。見守りの際室内の温度や湿度を調整し寝具の乱れを直している。和室で足を伸ばしたりソファを使って休息が出来るように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用、使用されている薬の目的、副作用、用法用量がわかるような一覧表があり、お薬情報が閲覧できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前にも生活歴や嗜好品、趣味など情報を収集しているが日頃のコミュニケーションの中で個々の喜び、楽しみを把握しそれぞれに敵した役割があったり気分転換が出来る様支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課表はなく、その日、朝のお茶の時間に天気や体調を考慮して一人ひとりとはいかないが利用者と相談し外出、散歩が見守りのもと出来る様支援している。また家族、友人といつでも外出できるよう協力を得て支援している。	・陽気が良ければ、日常的に近くの公園への散歩や職員と買物に出かけている。外出を希望しない利用者は庭のベンチで外気浴を楽しんでいる。また、月に1度は車で遠出を楽しんだり、家族や友人と美術展、買物や外食などにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にてお預かりし、管理しているが外出の際には希望やそれぞれの力に応じて、お財布を持ちお金を使える様支援している。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などのやり取りが自由に行えるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節の花を飾ったり、掲示物を貼り温度や換気に十分気を付け、加湿器を設置している	・24時間換気、エアコン、加湿器などで快適な環境を整え、心が和むよう洗面台に季節の花を飾っている。また、居間は食堂と和室があり、利用者はそれぞれ好きな場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて過ごされたり和室のソファースーツを使ったり足を伸ばして会話ができたり思い思いの過ごし方が出来る様になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れたお家の再現をしていただけるよう。使い慣れた物や馴染みの物を活かし居心地よく過ごせるよう工夫している。	・パンフレットに「各自好きな物を持ち込んでいただき」とあるように、家族の写真、仏壇、人形など、一人ひとりの生活歴が伝わるような居室の設えで、利用者が心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等わかりやすいように、プレートをかけて表示している。入居者様の目線で理解できるように配慮している。		

事業所名	グループホーム 本牧つばき園
ユニット名	りんどう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に融合したホームを理念とし朝の申し送り時に管理者、職員理念の唱和を行い実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し縁日や行事に参加したり地域の商店街に買い物に行ったりなど日常的に交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所や職員の状況に応じて運営推進会議を始め職員会議などで地域の人々に役立てることはないか話し合い取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ただの報告会で終わる事などない様意見や苦情をどの様に活かしていくかを話し合いサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者へ運営推進会議以外にもホームのお便りを届けたりする機械を設けている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が拘束の意味を理解しきれておらず状況によって話し合いを行い身体拘束は行っていない。安全を守る名目での時間帯を決めて玄関などの施錠は行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修などに参加し報告会を行っている。虐待に気付かない虐待言葉使いについても毎月のユニット会議にて見過ごしがちな話あっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会は全職員に至っていない。入居者それぞれの必要性をケアマネージャーが中心になって関係者と話し合い反映している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書は利用者御家族様と読み合わせを行い不安や疑問点について十分な説明をし理解いただけた上で署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、面会時、運営推進会議を通じて意見を出しやすい状況を設けている。出された意見に対してはどうか対応したのかを次の推進会議で報告している。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案をいつでも聞く事のできる様にしており月に1度の会議の場で話し合いを反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ての希望を叶える事は難しいが、管理者は定期的に職員に人事評価やヒヤリングを行い、毎年決められた月に昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○J Tにより職員の研修や指導を行っている夜勤の研修は経験や習得の状態を把握して付き添いの回数を決めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	つばき園の他に横浜市内に2軒のグループホームを展開しており、月に1度、管理者が集まり近況報告や問題点について話し合う機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の場で入居相談表を用いて御本人、御家族の困っている事、不安な事、要望について傾聴し職場の間でも情報を共有し安心して頂けるよう努めています。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や思いを傾聴し毎月の生活の様子を写真や文章のお便りにして情報を共有し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階から職員同士の情報の共有を図りご本人様ご家族様の必要としている支援を見極め柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人と一緒に過ごす中で喜怒哀楽を共にし、御本人様より学びあえる関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな些細な事でも御家族様と情報を共有し喜怒哀楽を共にし御本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも馴染みの人が面会に来られるようになっており、お友達との外出や通い慣れたお店、演劇場などに出掛け関係が途切れる事のない様に支援を行っている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立することなく支えあえる様支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了した後でも、御家族様の承諾を得てホームの様子をお伝えしたり近況をお手紙頂いて相談や支援に努め関係を断ちきらない取組みに努めている。		
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り、一人ひとりの意思に添えるように支援を行っているが困難な場合は何故困難なのかを納得して頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションの中から把握し記録に残し情報を共有する事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り記録を活用し日頃からの状態の努め一人ひとりの現状の把握に努めている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員、ケアマネージャーを中心に必要に応じて話し合いを行い月に1度のカンファレンスでそれぞれの意見を出し合い現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践、個別に記入し、スタッフ同士で伝達共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な面会、外出、外泊メニューの変更など柔軟なサービスの取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じてボランティア消防、文化施設などを活用し、豊かな暮らしへの支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び御家族の希望を大切にし、受診のサポートを行い月に2度の訪問診療を受けて頂いている。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問日の際個々の利用者様の状態報告を行いお互いの情報を交換すると共にケアや疾患などに対するアドバイスなど頂き利用者様へのサービスに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを通じて日頃の生活の状況や入院に至った経過を即日医療機関に届け御家族・医師と相談を重ね早期退院に向けて努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談の時から重度化された場合終末期のあり方について説明を文章及び口頭で行い同意を得ています。現在までターミナルケア実践はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の消防職員による応急手当の訓練を受けたり症例別の対応についても訪問看護師により対応の仕方を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間を想定した場合などの避難訓練を行っている。園内の避難経路はあらゆる場所からベランダに出れるようになっており地域との協力体制を築きかけているところである。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し尊敬の気持ちを持った言葉遣いに心掛け、また記録や個人情報の取り扱いにも注意した取り組みを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの願いや思いを尊重し日頃の会話の中自然と表現ができるように働きかけ自己決定が出来る様支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別な日課はなく出来る限りその日の一人ひとりのペースにあった過ごし方が出来る様に対応しドライブや散歩も職員が行き場所を決めるのではなく、利用者の希望を伺い決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や・整髪・髭剃りだけでなく理美容にてご本人の希望を尊重しカットやパーマを行いお化粧などできるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事の準備や調理後に片づけを行っている。時々利用者様の希望をつのり外食に出かけるなど、楽しむ事が出来る様支援している。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により献立が立てられており1日のバランスの取れた食事の提供ができています。毎食ごとに摂取量を把握し、柔軟な対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを職員見守りのもと行い、訪問歯科により定期的に口腔ケアを受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の声掛けを行い自立に向けての支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄チェック表を用いて排便の確認を行うとともに、水分・おやつを繊維の摂れる物に工夫したりと予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴は行えていないが、入浴剤や菖蒲、ゆず、りんごなど使ったりして演出し、入りたい時に入りリラックスして頂ける様支援している。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず居室内の温度や加湿器を設置したり清潔な寝具・寝巻きを使用して頂き気持ちのよい安眠や休息が取れるよう工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの疾患や薬の目的、副作用、用法、用量の情報を各ユニットに閲覧しており管理の仕方から服薬の確認までマニュアルを作成し誤薬のないよう意識を高めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で利用者のニーズを把握し、嗜好品を買いに出掛けたりお芝居などを見に出掛けたり食事作りをしたり家庭菜園、盆栽をされたり柔軟な対応を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様、地域の方との協力を得て、御本人様の希望に添える様支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常は事業所でお金を管理しているが買い物や外出の時はお金を所持して頂き職員見守りの元、使える様支援している。		

本牧つばき園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	間違い電話のないよう番号の確認や見守りは行うが手紙などのやり取りが自由に出来る様に支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節の花を飾ったり、掲示物を貼り温度や換気に十分気を付け、加湿器を設置し居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルだけでなく和室もあり畳で足を崩して一人で過ごしたり、気の合った利用者同士で過ごす事が出来る様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れたお家のご自身のお部屋をそのまま再現して頂ける様話し合い、居心地よく過ごしていただける様支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	月に1度のカンファレンスで一人ひとりの出来る事やわかる事を把握し、出来ないとあきらめてしまうのではなくどうしたらできる様になるのか話し合い支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 本牧つばき園

作成日 平成22年5月7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員を育てる取り組みスタッフがよって指導の仕方がバラバラだったり一方的な指導になってしまいフォローがなかなか出来ない	研修プログラムの作成と人事評価の項目などの見直し	事業部全体的なもの他につばき園独自のプログラムや予定表をスタッフと共に作成し勉強会を行うと共に他施設での現場実習に参加できる機会を設ける	6ヶ月
2	18	入居者様とスタッフが一緒に行事についてやホームでの生活について話し合いの場があまり持っていない	暮らしを共にする者同士の入居者様とスタッフの関係をより築いていく	月に1度、レクの時間帯などを利用して町内会会議としてホームでの生活についてなどの話し合いを行い快適な生活を過して頂ける様に支援を行っていく	3ヶ月
3	5	身体拘束、虐待など含むリスクマネジメント	ヒヤリ・ハットの活用	ユニットリーダーが中心となり毎月のユニット会議の時に1ヶ月間のヒヤリ・ハットや事故報告の再発防止に向けての話し合いを行う。	3ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。